

神戈陵を渡る風2

令和4年度 川辺高校 校長通信 第085号(通算)

令和5年1月13日(金)発行

明日からは大学入試共通テストとなります。さて、1月は、昔の呼び方だと睦月(むつき)です。この呼び名の由来を調べてみるといくつかの説があります。もっとも有力な説は、睦び月(むすびつき)が「睦月」に転じたというものです。睦び月とは、仲良くすること・仲睦まじいこと・互いに親しみ合うなどの意味を持つ「睦び合い」の宴を、お正月で家族や親族が集まる月に行うことが由来です。また、一月を表す別名には、初春月(はつはるつき)や新春(しんしゅん)、早緑月(さみどりつき)などがあります。自然や人との結びつきが重視されていた、日本古来の考え方を失わないように繋いでいきたいものです。

突然 QUIZ(クイズ) 第九弾 【解答編】

【問題】場所アから場所エまで一本道がある。途中に場所イと場所ウがあり、アイ間も、イウ間も、ウエ間も、それぞれの距離は60kmである。ある車は、アとイの間を時速10kmで走り、イとウの間を時速20kmで走り、ウとエの間を時速30kmで走る。平均速度は時速いくらか？



【解答・解説】

A君の考えは間違っている。

まず、距離を速さで割ると所要時間になるので、車はアとイの間を6時間で走行し、イとウの間を3時間で走行し、ウとエの間を2時間で走行することになり、合計で11時間かかる。

平均とは「全体をならす」という意味なので、この場合は、車が同じ速さでアからエまで走行するときの所要時間が11時間になるように、速さを求めればよい。そこで、

$$(60+60+60) \div 11 = 180 \div 11 = 180/11 \\ (=16と4/11)$$

と計算して、

答えの平均速度は時速180/11 km(≒時速16.36km)となる。

この種の問題には「往復の平均速度」があります。就職試験の適性検査を含むいろいろな試験で頻出しています。「往復の平均速度」という特殊な問題とその解法だけに拘るのではなく、「全体をならす」という根本を理解して欲しくて出題しました。

1月のいろ #にっぽんのいろ



天藍 (てんらん)

色名の「天」は限りなく美しいことを指します。藍色の中でも最高の美しさを誇る色だと考えられるのも納得ですね。空気が澄んだ冬の日に、伸びやかに晴れ渡った青空のような、静寂の中にも明るさを兼ね備えた色合いです。



薄紅梅 (うすこうばい)

中国から輸入された梅は平安時代に入り、より身近なものになったそうです。濃い紅花染(べにばなぞめ)は高価でしたが、薄紅梅は庶民にも親しまれました。梅の淡い花卉のような優しい色が、間近な春の訪れを予感させてくれます。

小松帯刀を知ってますか



宝山ホール(県文化センター)前に銅像(向かい側には、西郷隆盛の銅像)が建っています。これは、小松清廉(きよかど), 通称は小松帯刀(たてわき)の銅像です。明治維新で活躍した薩摩(鹿児島)人としては、西郷や大久保などが

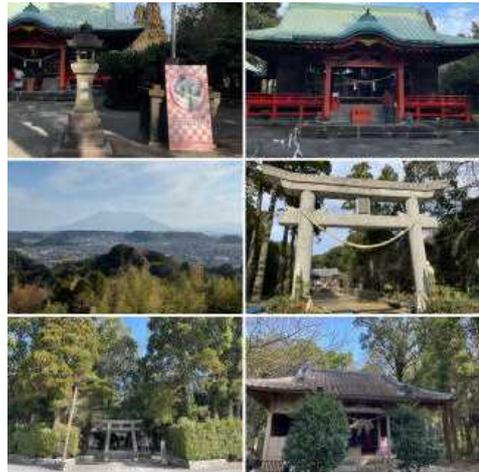
有名ですが、「小松がいなかったら明治維新は来なかった」とまでいわれほどの帯刀は、薩摩藩きってのフットワークと頭の回転の速さを持つ人でした。幕末の頃には、藩主から才能を見込まれ薩摩の洋式技術所・集成館や、貨幣の鑄造を任せられ、その後、長崎に行って軍艦や西洋の砲術・砲について学んだり、藩政改革に取り掛かったりと、重要な仕事を次々に受け持つようになりました。ついには若くして薩摩藩の家老職に就いています。帯刀の学んだ技術は薩英戦争や蒸気船建造に活かされた他に、朝廷・幕府・他藩との連絡及び交渉までこなし、四侯会議や討幕の密勅、大政奉還などにも関わるなど多忙な日々が続きました。明治になって、新政府になってからも多忙ぶりは変わらず、明治3年7月に35歳の若さで惜しまれつつ亡くなりました。まるで明治維新のために生まれて死んだような人です。変わったエピソードとしては、帯刀が結婚から間もない頃に薩摩藩内の栄之尾温泉へ旅行したことがあります。これが日本初の新婚旅行といわれています。知名度のためか、今では坂本龍馬夫妻が有名ですが、実は小松夫妻が10年ほど先に行っていたようです。



年末には、日置市日吉の園林寺跡にある小松帯刀の墓に行ってきました

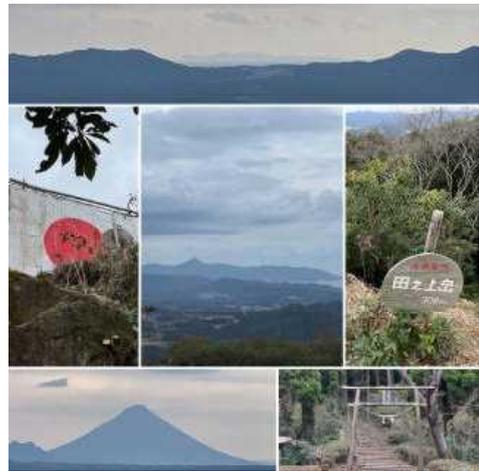
校長散策紀行

《今年の初詣》1月1日



元旦に、飯倉神社と竹屋神社(加世田), 竹屋神社(勝目)の3つの神社に初詣をしました。

《地域散策》1月3日



田之上岳(たのかみだけ)に登頂してきました。曇り空でしたが、山頂からは、開聞岳が綺麗に望めました。遠景にうっすらと三島村の竹島?らしい島影も見えていました。



田之上岳の山頂には、飯綱大明神が祀られています。また、年末年始には大きな日の丸が山頂に飾られていました。